

2011年4月春号 No.32

発行:わたなべ美穂後援会

〒818-0125

太宰府市五条 2-2-25-601

Tel&Fax : 092-923-3051

<http://www.watanabemiho.com/>

ほたる



何が出来るか
何をすべきか
私たちの問題です



四月から小学校で英語教育

詳細は次ページ以降三月議会報告をご覧ください

今回のトピック 先生方は頑張っています...

未曾有の災害以来、私のところにも「何か出来ることをしたい」というご意見がたくさん寄せられています。この歴史上稀有な災害の復興の為には、ずいぶん長い時間がかかると思います。これから二か月、半年、一年先も被災地の方々は私たちの手を必要とされるかもしれません。私たちはどんなときでも今の気持ちを忘れず、息の長い救助を続けていきたいと思っています。

— わたなべ美穂 —

多賀城市へ救援物資到着！

3月16日、太宰府市から第一便として以下の救援物資が友好都市多賀城市へ到着しました。これらは先方の要望に応えたものです。

- 飲料水 20 ペットボトル 2,496本
- 毛布 150枚、ごみ袋 20,000枚、マスク 30,000枚
- 給水ポリタンク 1,000ℓ 2台 500ℓ 2台

3月22日、第二便が以下の内容で出発し、翌23日到着しました。

- 飲料水 20 ペットボトル 1,200本
- 食料 (一万食分) 食パン 1,000袋 菓子パン 7,000個
- ごみ袋 50,000枚 紙コップ 2,000個
- 給水ポリタンク 1,000ℓ 2台

3月議会報告

子どもたちと向き合う時間を！

～ 余裕のない中、英語授業開始 ～

昨年十二月議会において教職員の現状と課題について聞いた際、本市では、病気休職中の教職員の内精神疾患が7割を超える状況だという回答がありました。この数字は職場としても何らかの問題があると考えられます。また、本年四月から小学校五・六年生で英語教育が始まり、来年度からは中学校で女子も含め武道が必修になります。このどちらの教科も教える方に特別な技術が求められます。こういった中、まず学校環境を整えることが早急に求められます。

- 一、教職員の職場環境を具体的にどのように変えていくのか。
- 二、教師が子どもと向き合う時間を確保するために、事務作業の効率化などの具体策はあるのか。
- 三、四月から開始される英語教育の準備はどのように進めてきたのか。
- 四、図書館を常時開館し、図書司書を配置する考えはあるのか。

教育部としても教職員の現状は十分把握しているのですが、具体的に取り組みようとする考えを示しました。また、英語教育は当初英語圏の授業アシスタントを増員して対応します。図書司書について、必要性は理解しているが、人員を増員するのに、どこか人員を増やすべきか今後検討するという回答でした。

多賀城救済のため千二百万円補正

まずは物資を！その後送金

この補正予算にあたり、以下の質問をしました。

- 一、今後の物資搬送の計画は
- 二、市民へ救援物資の呼びかけは
- 三、本市市民で被災した方は

第二便は三月二十二日の週に送り、その後も継続して相手が望む物資を搬送しますが、市民への物資の呼び掛けは、集めたり仕分けするのに時間が必要な為、まずは市で行い、その後時間的余裕が出来るようになれば、呼びかけも考えるということです。市民で被災されたという報告は受けていないということでした。

市民の中には、なぜ多賀城市ばかりと思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、わたなべ美穂は、東北全体へ向けて物資を搬送しても、現在物資の集荷拠点で、被災地へ搬送できずにおかれているという現状をみると、搬送できる場所から必要とする人々の手に直ぐにわたった方がより現実的な救済になると考えます。

TPP に関して拙速に進めないように求める意見書採択

政府が本年六月に結論を出すとしていた TPP（環太平洋経済連携協定）に関して、日本の農業が本当に守られるのか、国民的議論を行った上で結論を出すべきだという意見書を全会一致で採択しましたが、今回の災害を受け、恐らく一定期間は立ち消えになるのではないかと考えます。

今だからこそ考えてみませんか？

食料の問題

今回の災害によって、恐らく東北地方の漁業・農業は壊滅的なダメージを受けたと思います。今後、しばらくは輸入に頼らなければ、日本全体で食料が不足する可能性が高いと考えます。それに伴い、価格の高騰も懸念されます。私たちは、最低でも自分たちが飢えずにすむ、食料自給率と非常時に備えた貯蓄を実現できるための方法を考えるべきではないでしょうか？

エネルギーの問題

これまで世界中が原子力によるエネルギーを生み出す方向で進んでいました。しかし、日本はこんなに国土の狭い国です。もしチェルノブイリ級の事故が起これば、日本全国に放射能が蔓延する事は十分あり得ます。私たちは多くの原発に囲まれあまりに多くのエネルギーを使っていたのではないのでしょうか？

生活の問題

町中にコンビニと自動販売機があふれ、電気製品は言葉をしゃべり、細かい所まで注意を喚起してくれます。それによって私たちは自然社会で生きていく能力を退化させ、知恵を失っているような気がします。自然の中でも生きていける能力を子どもの頃から学んでいくことが必要ではないのでしょうか？

新春の集い開催。120名を超える参加者

1月30日、非常に寒い中にも関わらず、120名を超える参加者の皆様と共に新春の集いが開催されました。

市長・県議・わたなべ美穂の母校、筑紫中央高校同会会長などの来賓の皆様との御挨拶の後、わたなべ美穂の議会報告を行いました。

その後、美味しい豚汁、おにぎりなどで親睦をはかりました。御参加頂いた皆様、ありがとうございました。



投票は生活を守る第一歩です

「投票しても自分の生活には関係ない」「誰に投票していいかわからない」
そういう声をよく聞きます。わたなべ美穂が二期8年間議員活動を通して感じたことは、ご自分の生活に直接かかわる問題が起きた時に始めて、公共の仕事について関心を持たれる方もいらっしゃるということです。どのような考えを持った首長を選ぶのか、どのような議員活動を行う議員を選ぶのか、これは皆さんの生活を守るための第一歩です。

県知事選挙	3月24日告示	4月10日投票
県議会議員選挙	4月1日告示	4月10日投票
市議会議員選挙	4月17日告示	4月23日投票

それぞれの選挙期間中、期日前投票を行うこともできます。

二期八年間ありがとうございました。

皆様のご支援のおかげで二期八年間、無事議員活動を終えることが出来そうです。一期目と一番違った事は執行部の対応です。やはり期数を重ねるということは、執行部側も議員への見方が変わるところがあるのかもしれませんが、議員も一期目はどうしても自分の勉強に時間を割かれます。私自身まだまだ勉強が足りない所がありますが、市民の皆様にお教えを頂きながら、ご期待に添えるよう、今後もできる限り頑張ってまいります。本当にありがとうございました。

－わたなべ美穂－